

愛知東邦大学 シラバス

開講年度(Year)	2024年度	開講期(Semester)	前期
授業科目名(Course name)	入門ボランティア		
担当者(Instructors)	神田 浩史	配当年次(Dividend year)	1
単位数(Credits)	2	必修・選択(Required / selection)	選択

■ 授業の目的と概要 (Course purpose/outline)			
<p>ボランティアについての理解を高め、積極的にボランティア活動に参加するための動機づけを目的とします。そのために、ボランティアに対する基本的な理解から始め、具体的な活動、歴史などを学び、ボランティア団体、NPO（非営利組織）の基礎に至るまで、学んでいきます。授業の目標は以下のとおりです。(1)ボランティアについての基本理解の確立、(2)ボランティア活動の概略と大学近辺における各種ボランティア活動についての理解、(3)ボランティア体験と報告（レポート）、(4)ボランティア団体とNPOについての理解、(5)ボランティア活動への参加意欲の涵養。以上の内容を講義形式で行います。なお、質問等の受付については、授業内で指示します。</p>			

■ 授業形態・授業の方法 (Class form)	
授業形態(Class form)	講義
授業の方法(Class method)	ワークショップを多用します。グループ・ディスカッションやボランティア体験発表も用いて、受講生が主体となれる講義を目指します。

■ 各回のテーマとその内容 (Each theme and its contents)			
回数(Num)	テーマ(Theme)	内容(Contents)	メディア区分(Media)
第1回	体験的ボランティア論	授業の進め方、成績評価方針、講座計画を説明した上で、担当者の自己紹介を兼ねてボランティア体験を共有します。	<input type="checkbox"/>
第2回	ボランティアってなに？	ボランティアってなに？というテーマで受講生が考えをまとめ、それらを全体で共有します。	<input type="checkbox"/>
第3回	ボランティアを必要とする世界の現状を知る	なぜ、ボランティアのニーズが高まっているのか、を考えるために、ワークショップ形式で世界の現状について考えます。	<input type="checkbox"/>
第4回	災害時に活躍するボランティア1（ワークショップ）	ボランティアのニーズが最も高い災害時対応について、ワークショップ形式でどういった活動が可能か具体的に考えます。	<input type="checkbox"/>
第5回	災害時に活躍するボランティア2（振り返り）	前回のワークショップの振り返りを行い、災害時のボランティアの重要性について再確認します。	<input type="checkbox"/>
第6回	身近に活動するボランティア	授業後半の課題となるボランティア体験を積むために、名古屋市近辺におけるボランティア活動の紹介と、自分自身にあった活動の調べ方について学びます。	<input type="checkbox"/>
第7回	国境を越えて活動するボランティア1	海外におけるボランティア事例について、担当者の体験をもとに考えます。	<input type="checkbox"/>
第8回	国境を越えて活動するボランティア2（ボランティア活動ランキング）	海外におけるボランティアの重要性について、ワークショップ形式で考え、海外でのボランティアの重要性について再確認します。	<input type="checkbox"/>
第9回	「発表・ボランティア体験」準備	受講生のボランティア体験についての発表の準備を行います。	<input type="checkbox"/>
第10回	日本社会に見るボランティアの歴史1	外来語のボランティアという言葉が用いられる前から、日本社会に広く存在したボランティアの歴史を概括します。	<input type="checkbox"/>
第11回	日本社会に見るボランティアの歴史2	1995年の阪神・淡路大震災が”ボランティア元年”と言われた、その時期以降の日本社会におけるボランティアについて考えます。	<input type="checkbox"/>
第12回	「発表・ボランティア体験」1	受講生のボランティア体験についての発表を行います。	<input type="checkbox"/>
第13回	「発表・ボランティア体験」2	受講生のボランティア体験についての発表を行います。	<input type="checkbox"/>
第14回	ボランティア活動の未来に向けて	ボランティア活動の将来像、未来についてSDGs（持続可能な開発目標）を用いて考えます。	<input type="checkbox"/>
第15回	全体のまとめ	授業全体を振り返り、SDGsアクション・プランを作成するとともに、授業評価を行います。	<input type="checkbox"/>

■ 授業時間外学習（予習・復習）の内容 (Preparation/review details)	
・ 授業前半においては、メディアで報じられたボランティアについて情報収集し、その内容を分析した上で、考察し、レポートにまとめます。	

(毎週1時間程度に加えて提出前は4時間) ・授業後半においては、自分自身でボランティア体験先を見つけ、コンタクトをとり、実際にボランティアを体験し、その結果を講義中に発表するか、レポートとしてまとめるかを選択して実施します。新規にボランティア活動を行うことが困難な場合は、過去のボランティア体験について発表するかとめます。(毎週2時間に加えて発表・提出前3週間は4時間ずつ)

■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback)

・前半のレポートについては、メディアからの情報のとり方について、丁寧に説明します。その上で、さらに情報を得るのが困難な受講生に対しては、個別に質問に答えていきます。・後半の発表・レポートについては、まず、受講生自身のボランティア体験を振り返る(ない場合も含む)機会をワークショップで設けます。その上で、体験のない受講生や、新たなボランティア体験を希望する受講生に対しては、ボランティア機会の紹介を行います。新規のボランティア体験が困難な場合は、過去のボランティア体験の発表やまとめ方を共有します。

■授業の到達目標と評価基準(Course goals)

区分(Division)	DP区分(DP division)	内容(DP contents)
知識・技能	◆ 2019全学共通DP1	学びの基礎となる事象を、社会、文化、自然環境などの側面から分析し、専門知識を育み、活用できるようになる。

■成績評価(Evaluation method)

筆記試験(Written exam)	実技試験(Practical exam)	レポート試験(Report exam)	授業内試験 (in-class exam)	その他(Other)
			75%	25%

授業内試験等(具体的内容)(Specific contents)

毎回の講義への参加度(コメント・ペーパーの提出やワークショップへの参加度)で75%、前半のレポートで10%、後半のレポート(発表)で15%の配点とします。コメント・ペーパーの提出は毎講義で求め、その内容を採点します。講義の中にワークショップを数回導入し、それに対する回答も求めていきます。レポート、発表も採点対象となります。

■テキスト(Textbooks)

No. (No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	講義中に教員が教材を提示します。それらの教材は講義終了後、受講生に共有します。	
2		
3		
4		
5		

■参考図書(references books)

No. (No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	中田豊一著「ボランティア未来論 一私がいづけば社会が変わる」(コモンズ)	
2		
3		
4		
5		